

会 議 録

会議等名	富士見市歯科口腔保健推進委員会委員委嘱状交付式 及び 平成28年度第1回富士見市歯科口腔保健推進委員会
開催日時	平成28年6月3日(金) 午後1時30分～3時00分
開催場所	富士見市健康増進センター 研修室
出席者名	委員：大渡 廣信委員長、三木 とみ子副委員長、岩橋 真澄委員、 日下部 菜穂美委員、是永 國彦委員、長堀 厚子委員、 苗代 明委員、二川 明子委員、林 英子委員、 事務局：大森健康増進センター所長、 望月健康増進センター副所長、 相原健康づくり支援係主査、 担当 渋谷、駒林、高橋
欠席者名	委員：佐藤 公誠委員、田中 浩委員
傍聴者	0名
次第	1 開会 2 委員長あいさつ 3 審議 4 その他 5 閉会
議事内容	
1 開会 2 委員長あいさつ 3 審議	
(1) 歯と口腔の健康に関する事業の取り組み状況について	
事務局	(資料確認) 資料1～3について (資料1について)昨年度の第2回委員会にて歯っぴーライフ☆ふじみ概要版についてよいものなので、もっと市民に見ていただく機会を増やした方がよいと意見をいただいた。これまでは市のホームページで、概要版は市政まちづくりの 카테고리となっていた。より市民に親しみやすくするため、健康・福祉・子育ての 카테고리にも歯の健康に関するページをつくり、歯っぴーライフ☆ふじみの紹介文とお口のなかの健康チェックを掲載した。またさらに詳しく知りたい方はふわっぴーをクリックすると、ライフステージごとのチェックリス

トが掲載された概要版が表示される。

資料2と3は、富士見市での歯と口腔の健康に関する事業の取り組みをまとめている。学齢期の学校歯科保健状況調査が10月にならないと事務局の手元に届かないため、その補てんとしてライフステージ別目標値の学齢期学校保健報告書の内容を入れている。

その他、平成27年度は妊産婦歯科健診が始まり、受診者は139名であった。また平成28年度より3歳児のフッ素塗布が始まり、実施率は、4月76.5%、5月78%となっている。フッ素実施を希望されない理由としては、かかりつけ医で塗布済が最も多く、そのほか必要性を感じない1名、外国人の母で分からない2名となっている。成人歯科検診は平成27年度は6月～2月で実施期間を拡充して行っている。年齢は30歳以上となっているが、今後の計画としては、平成29年度から18歳以上を予定している。

委員長

どなたかご意見あるか。

委員

平成27年度の学齢期の学校歯科保健統計は10月にならないと出ないので斜線となっているが、少し遅いのではないか。

事務局

現場では出ているかと思うが、こちらでは10月に教育委員会をとおして、前年度のものをいただいている。

委員

学校歯科保健統計は9月2日現在の虫歯の状況を学校がまとめて、教育委員会に提出している。そのため虫歯の状況は去年のものになっている。ただし、歯科保健活動、歯みがきや歯科保健指導の有無については、平成27年度のものが今年の9月2日にまとめられて、教育委員会に提出される。

委員

それで現時点では平成27年度のデータはまだないということ。

委員

ライフステージ別目標値を見ると「むし歯のない児童・生徒の増加」は、中学生では達成している。また、「むし歯を治療していない児童・生徒の減少」については、人数を減らしていきたいというデータ分析でよいか。

事務局

そういうことになる。

委員

データはいつの段階のものか。

事務局

データは平成27年度の歯科健診の結果である。その結果は3月頃にいただいている。

委員

小学校では、「むし歯のある子」は増加しているのか

委員

「むし歯のない児童・生徒の増加」に関しては、むし歯が1、2本で済む子もいれば、ひとりで何本もある子もいる。治療が必要と指導されても、治療を受けない子もいるので、そのままになって翌年もむし歯の状態である。課題である。各小中学校の先生方や養護教諭の先生も熱心に取り組んでいるが、むし歯の全くない子と多い子と両極化している。

委員

そういう子たちがDMF歯数をあげている。

委員

おそらくそういうことになる。このデータについては本数でなく、人数をみている。

委員長

針ヶ谷小学校で歯科健診を行ったが、むし歯のない子は確かに増えている。一

<p>事務局</p> <p>委員長</p>	<p>方で、むし歯が極端に多い子たちがいる。これは個人的な印象だが、虐待などが関係して口の中が汚れている場合がある。そういう子がいることは昔から言われているが、最近もいる。本当にひどい時には、学級崩壊などにも一部関係するかもしれない。</p> <p>むし歯の多い子や未治療の子は、家庭環境の影響にも配慮すべきかもしれない。また、保護者に病気や障がいがある場合もある。家庭でも、職場でもうつ病になる。口の中がそういう健康状態を反映する。口腔保健をみることで、現代の縮図をみることになる。歯だけではなくて社会のこともわかると思う。どうだろうか。</p> <p>成人・高齢者・母子それぞれの領域に担当が分かれて関わっている。口腔保健についても、個別で対応することもあるが、全体としては、集団に対する指導が多い。歯に興味のなかった参加者が、興味をもって帰られる方もいる。高齢者では一昔前の歯医者が怖いから放っておくという人よりも、受診はしているが、かかりつけ医とのコミュニケーションが不足していると感じる人がいる。受診していても、教室の中の健診で問題点が発見される方もいる。</p> <p>増進センターに来られる人はまだよいが、来られない人が心配である。診療でも感じるが、来院されて治療する人よりも訪問で治療する人に大変なケースが多い。民生委員や訪問看護師も家庭へ訪問するのでよくわかると思うが、本当に大変な人が支援や治療につながらないことを何とかしたいと思う。話が大きくなりすぎたかもしれない。次の議題へうつる。</p>
<p>(2) 富士見市の歯科口腔保健の推進について（意見交換）</p>	
<p>委員長 委員</p> <p>委員長 委員</p> <p>委員長</p> <p>委員長 事務局</p>	<p>委員の皆さんが、各方面でどのように取り組んでいるかお聞かせください。</p> <p>委員長が話していたとおり、「来ない人」をどうしたらよいか気になっている。ボランティアをとおしても感じているが、「来ない人」をどうするかが一番の課題だと思う。前回、他の委員さんの話にもあったが歯っぴーライフ☆ふじみの概要版にある簡易的なチェックリストは、わかりやすくとてもよいと思う。</p> <p>パワーアップ体操や地域の活動をとおしてはどうか。</p> <p>仲間に月に1、2回は歯石を取りに行った方がいいよとはPRしている。全員行っているかはわからないが。歯科健診にも行っていると聞く。</p> <p>治療というより、歯のクリーニングのために定期的受診している人も多い。高齢者になると個人差が大きい。歯が抜けたりすると、急に栄養が摂れなくなったりもする。その時はいいが、その後転倒、骨折したりすると栄養が摂れないので、治りが悪くなる。歯がいいと踏ん張りが効き、体全体が動かしやすいので回復率が上がる。健康寿命を延ばすことは歯の寿命を延ばすことにつながってくるので、小さいうちから歯に関心を持ってもらいたい。</p> <p>富士見市は妊産婦に関してはどうか。</p> <p>パパママ準備教室で歯科のブラッシング指導を年6回実施している。</p>

委員	お父さんも参加できるのでよい。
委員	富士見市は資料2を見ると、妊産婦歯科健診もしているのか。
委員長	富士見市は行っているが、他の市はしていない所もある。富士見市は昔から熱心に取り組んでいる。
委員	ライフステージ別目標値に関して、「むし歯のない児童・生徒の増加」で中学校1年生の平成36年度目標は70%になっている。平成27年度の結果ですでに70.9%に達しているが目標値の設定の仕方はこれでよいのか。
事務局	計画上の目標数値のため変更はできないが、平成32年に中間見直しがあるので検討していく。
委員	「歯肉に炎症をもつ児童・生徒の減少」で小学生は現状21.4%に対して平成36年度の目標値は15%になっている。減少していくかどうか興味のもてるデータである。40歳代の「歯周ポケットを有する人」は減少していないが、60歳代では減少しており目標達成している。データ全体を見て、どこを重点的に対策をたてるのか考える必要がある。また「仕上げみがきをしている保護者」の目標値はほとんど100%を目指しているが、データは、今後出てくるのか。
事務局	毎年データを出すことはできないが、平成32年度の見直しに向けて、平成31年度にアンケートをとり、集計していく予定である。成人期の歯肉については成人歯科健診311人中の40歳代、60歳代で母数にばらつきがあるため、これを指標にしてよいかの問題がある。平成27年は40歳代が74名、60歳代が77名で数として少ない。指標の検討をしていきたい。
委員	成人歯科健診はどの年代が増加しているのか。
事務局	年代は把握していないが、成人歯科健診の期間延長によって受診者は増加していると、担当から確認している。
委員	40歳代の「歯周ポケットの増加」は、これまで成人歯科健診を受けてこなかった方が受けたために歯周ポケットを有する者の割合が増加したとも考えられる。データを精査してもらいたい。 40歳代の歯周ポケットが増加しているのは、職場環境が厳しいなど社会的な現象も関係しているのかとも思う。
委員	委員長が話したように、まずは口腔内のことに関心を持ち健診を受診してもらうことが大切。平成36年の目標値は800人としているので、受診者が増加すれば、データのとり方ももう少しよくなると思う。
委員	給食後の歯みがきは13校から12校と減ってしまっているのか。
委員	減ったというよりもデータのとり方の問題である。歯の日などイベント限定で歯みがきを実施している学校があり、「歯みがきの有無」に対する解釈が年ごとに変わるため、学校歯科保健状況調査票へのアンケート回答の仕方で減ったり増えたりしている。状況は変わっていない。
委員長	歯科医師会からも学校で実施してもらえるように、働きかけていきたい。
委員	成人歯科健診に関しては、治療を始めると対象にならないので、目標値として

事務局	<p>どうなのかと思う。</p> <p>ご指摘の通り、成人歯科健診後、意識が高まり受診を始めた方は対象外となるため、啓発がすすむほど健診受診者数が減る可能性はある。成人歯科健診の受診者増加をよしとするのかは悩ましい問題ではある。</p>
委員	<p>以前、成人歯科健診は年間1、000人くらい受診していたので、その目標値でよいと思う。ただ、一度受診して定期的に歯石を取ったりしていると、次の年は対象にならなくなるので、数値のとり方としては難しさはある。</p>
事務局	<p>別の審議会健康ライフ☆ふじみというものを作成しており、その中で歯科健診受診状況を調べている。40歳代から64歳までは半数が受診しており、高齢者になると、57.9%になる。</p>
委員長	<p>世界の情勢からすると、57%が受診しているということは、すごいことである。いかに関心のない人に関心を持ってもらえるかが、健康状態を変えるカギになるというデータも出ている。認知症の増加も問題で、厚労省の発表では去年は362万人が認知症または予備軍であるという。前年は300万人といわれていたが一気に増加している。東入間医師会の日鼻先生を中心に認知症に取り組んでいる。65歳以上は4人に1人が認知症という統計もあり、厚労省は認知症の方を在宅で診ようと考えているようだが、難しいと皆わかっている。増進センターも昔は訪問をしていてよかった。</p>
事務局	<p>介護保険以前は実施していたが、現在は介護保険サービスで対応している。</p>
委員長	<p>そのほか、食改からの立場としてはどうか。</p>
委員	<p>食改でこの会のことを報告する場がなく、内容の報告はできていない。食改の南畑グループに所属しているので、折に触れて歯のことを話すようにはしている。</p>
委員	<p>歯が全身の健康に大切ということを感じている。健康ライフの70頁が見やすくてよい。5月、6月の広報に歯のことが載せられていてよかった。テレビで東日本大震災の被災者が避難所生活で、口腔ケア不足から肺炎を発症することが多いと紹介していた。</p>
委員長	<p>熊本や関西の震災の時も大変だった。埼玉県は災害が少ないと言われるが、油断してはいけない。富士見市では障がい者の避難所が確立されてないこともあり、認識が少し甘いように思う。</p>
委員	<p>歯科医師会としての取り組みで、前回の委員会終了後の2月に市長、副市長、教育委員会、増進センター、各関係課長、歯科医師会で歯科口腔調整会議を実施し、行政の各課の方と歯科保健に関する情報、意見の交換を行った。毎年実施出来たらと思う。昨年妊産婦歯科健診が始まり、これまで成人歯科健診をあまりしていなかった医院での受診もあった。妊産婦歯科健診を通して家族にまでアプローチを広げられたらと思う。3歳児健診のフッ素塗布は4月の健診でお父さん、お母さんにかなり好評で啓発活動になった。成人歯科健診は年齢拡充という話もあったが、受診者を増やす方策を考えていきたい。また、日曜にやっている歯科医院が少ないため、輪番制で診療することを考えている。</p>

<p>委員 委員 委員 委員</p>	<p>毎年埼玉県で歯科ポスターや標語のコンクールを実施しているが、県レベルのため受賞が難しかった。そのため今年は第1回富士見市よい歯の標語コンクールを実施した。2週間ほどの募集で895人の応募があった。受賞者には市長等から歯の健康フェアで直接表彰していただく。表彰式には保護者も参加可とし、表彰式終了後には歯の健康フェアへの参加を促す予定である。</p> <p>休日歯科診療所は、現在ないのか。</p> <p>現在はない。内科診療は東入間医師会が駒林と増進センターで行っている。</p> <p>歯はお正月休みに痛くなることもあるので、ぜひお願いしたい。</p> <p>歯科医師会で診療所を持っていないので、輪番制でどこか1ヶ所を開けることになるかと思うが、この場合でも行政の補助が必要になってくる。</p>
<p>(3) 今後の予定について</p>	
<p>事務局 委員</p>	<p>次回は平成28年度2回目の委員会として、来年3月に開催し、平成27年度の確定実績や、次年度の歯科事業の計画等の報告を予定している。各委員の方でも、取り組み状況や新たに実施する事などがあれば発表してほしい。後日開催日を通知申し上げる。</p> <p>生涯にわたって間断ない口腔の健康づくりを実現していくのが、この委員会の目的である。口の中から健康が見えてくる。逆に口の中から健康をつくることもできる。歯科教育は学校だけでなく、それぞれの場面で教育していくことが重要である。</p>
<p>9 その他 (特になし)</p> <p>10 閉会</p>	